

2011年

安全・安定輸送確立と 全力をあげよう!

不採用問題最終解決に



組合員の購読料は
組合費に含まれます

荒川区西日暮里2-55-1
国鉄労働組合東京地方本部
発行責任者 石上浩一
編集責任者 常盤達雄

No.1730 定価
15円

2011年
1月5日

国労加入を 大胆に訴えよう

組合員・家族の皆さん、新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、地方本部を代表し挨拶を申し上げます。昨年、JR不採用問題は政治的合意を経て、最高裁判所において鉄道・運輸機構との裁判上の和解が成立し、裁判は終了いたしました。

あらためて苦難と波乱に満ちたこの運動と闘いを支えた、組合員に心から感謝と御礼を申し上げます。

雇用問題という課題が残ったものの解決が実現しました。

この解決した力は、一つには二三年という、言葉では言い表せない苦闘を乗り越え頑張り合ってきた闘争団・家族の揺るぎない信念と闘いだと思えます。二つは、組合員の力です。分割・民営化を通じてかけられた国労解体攻撃は、当時の中曽根総理大臣の発言にもあるように、国労を潰せば、総評・社会党が解体するという中で、差別・選別そのものでした。

そうした、攻撃に抗し国労組織を守り抜いたことです。また、国会前集会・自治体決議・院内集会・国会議員要請をはじめ大衆行動、カンパ、物販の購入など、自らの差別と闘いながら、闘争団を支えきった力だと思えます。

三つは、地域・共闘の国労への支援・連帯です。物販・連帯する会・デール基金・カンパをはじめ、大衆行動への取り組みです。国鉄闘争を風化させることなく、地域共闘運動として国労を支えていただいた力だと思えます。

四つは、政治の力です。一昨年、政権交代を受けて連立政権が発足しました。

国策により二三年という長い年月と、解雇され厳しい生活を強いられる闘争団を放置しておく訳にはいかないと、政治窓口の国会議員の皆さんに努力していただき、四党が政府に解決をせまり、政府として、解決にいたしました。

この四つの力が結合して解決への機運を掴み取ることが出来たと思えます。また、未解決の課題があるものの、更に、団結・統一を大切に国労の旗の下に結集し最終決着の年にならなくてはなりません。不採用問題の解決を機に、私たちは、未来を見据えて、安心・希望に満ち溢れた国労を作り上げる真摯な運動を全職場に浸透させていきたいと思います。



組織拡大が最重要課題 執行委員長 石上浩一

「組織は人なり」という言葉通り、仲間を大切にしたい、互いに助け合う職場の取り組みの重要性、労働条件や職場環境の改善に向けた職場活動・分会活動の大切さを今日まで学び合ってきました。今こそ国労が、職場のリーダー的存在であることを内外に示し、共感を広げ信頼と共闘を定着させる取り組みを進めていかなくてはなりません。

あわせて、組織強化・拡大に向けた取り組みが着実に前進している今、大きく展望の持てる組織作りに向けて全機関が歩み出していることに自信と確信を持ち合いたいと思えます。

二〇一〇春闘を取り巻く情勢は、リーマン・ショックによる世界同時不況から大きく落ち込み、金融破綻によってデフォルト

寸前まで追い込まれる国が発生するなど、先行き不透明となっています。私たち労働者の雇用・生活は、デフレ経済のもと、格差と貧困が拡大しています。今春闘は、すべての労働者の待遇改善を求め、官・民統一の闘いに押し上げていかなくてはなりません。

国労東京 2011年 新春マラソン大会

1/15 皇居1周・2周

スキー大会

2/23・24 湯沢パークスキー場

申し込みは地区本部支部へ

また、労働者派遣法の抜本的改正をはじめ、交通基本法の制定など多くの課題が山積しています。私たちは、安心して生活できる社会・安心して働ける職場を目指し、労働条件の改善・環境改善などに総力をあげ取り組んでいきたいと思います。

最後になりますが、今、安心して暮らせる社会・医療・年金・介護の社会保障、雇用問題などの政策実践が急務となっています。私たちは、平和と民主主義、憲法擁護に向けて、全力をあげるとともに、本年四月に実施される統一自治体選挙については、国鉄労働組合が掲げてきた政治方針の前進を期する政党との連携を強めていきます。また、「JR不採用問題の最終解決」・「健全な労使関係の確立と労働条件改善」・「安全・安定輸送の確立」・「組織の強化・拡大」など当面する、国労の諸課題の実現にむけ、組合員・家族の先頭に立つ決意を申し上げます。

春風献上

国鉄労働組合東京地方本部

執行委員長	石上 浩一
執行副委員長	稲荷 靖
書記長	松川 聡
財政部長	鎌田 博一
組織部長	宮崎 浩則
調査部長	海老原 悟
教宣部長	常盤 達雄
政治部長	中澤 和夫
福対部長	山田 博樹
執行委員	横倉 一夫
執行委員	恒本 肇
執行委員	岡野 嘉明
青年部長	松尾 郁弥
婦人部長	阿部 美津子
会計監査員	広瀬 裕二
書記局	谷川 春男
〃	岡田 直之
〃	新井 清一
〃	小俣 勝美
〃	佐藤 誠
〃	井口 栄子
〃	小川 美智子
【国労会館東京地方部】	
職員	市村 和子
【国労議員団】	
団 長	佐藤 洋二
【国労家族会東京地連】	
会 長	青柳 清美
【鉄道退職者会】	
会 長	羽切 信夫

各支部大会 開かれる

中央支部

一月一三日に中央支部第二四回定期支部大会をJR新宿ビルにて開催した。

大会では、JR不採用問題の残された課題である「雇用」の確保に向けて引き続き組織として全力を上げることを確認した。同時に、この間、西部ブロックで受け入れていた三闘争団(旭川・深川・留萌)と長い年月を共に闘い続けてきた事の意義と成果を、今後の組織拡大に繋げていくことを確認した。

中央支部は、JR東日本・東海以外に、鉄道運輸機構、国鉄清算事業本部や鉄道総合技術研究所・日本テレコムといった職場で働く組合員で構成された支部で、互いの職場実態を突き合わせるだけでも大変な状況。

その中で共通して言われているのが、年々組合員が高齢化する中で、一つに今後の組織展望を切り開くためにも、真剣に組織拡大に取り組む。二つに退職後も高齢者が安心して働ける労働条件の確保である。共通する課題をはじめ、職場毎に抱える課題に対し、大会では支部が組合員一人ひとりの付託に応えられるよう、分会と協力しながら頑張ることを確認し閉会した。

自動車支部

自動車支部は第六七回定期大会を一月二八日、地本会議室に於いて開催した。

生方副委員長の開会宣言に始まり、議長に磯部委員(長久保分会)が選任された。挨拶に立った丸山委員長からは、採用差別問題の経過と再雇用を求めて支部としても全力で。斉藤さんの国労加入報告と組織拡大は急務でありこれを足がかりに奮闘してもらいたい。働きやすい職場を作るため議論を今大会で深めてほしいと訴えた。来賓に松川地本書記長を迎え、地本大会の報告、不採用問題、組織拡大報告などの挨拶を受けてきた。

代議員からは佐野基地や三ヶ日営業所などの配転を含めた職場問題や、和解放も自動車職場では昇進試験を含み国労差別が以前と変わらず続いているが、正常な労使関係を強く求めていく闘いを作っていく。組合員の高齢化が進んでいるので組織拡大は急務と考えるが、結果がだせないなど報告・意見が多く出された。

唐澤書記長から、小さな問題も点検摘発し要求を作り上げ働きやすい職場をつくり組織拡大にも結びつけていこうと集約が行われ、この一年間の運動方針を決定してきた。

最後に、丸山委員長(団結ガンパロー)で無事大会を閉会した。

大井工場支部

国労大井工場支部第九一回定期代議員会が一月三〇日東京総合車両センター一〇一室に於いて開催された。

伊東副委員長の開会の挨拶で始まり、議長には小島代議員(保全科)副議長には酒井代議員(部品科)を選出した。

木村委員長挨拶につづいて各来賓からの挨拶、地本松川書記長から情勢報告を含めた挨拶があった。議題に入り代議員会延期承認のあと二〇〇九年度経過報告及び二〇一〇年度運動方針(案)二〇〇九年度決算報告を提案して午前中の議事を終了した。

再開後、質疑応答に入り四名の代議員から発言があり、組織拡大した経過や人減らし、合理化による労働条件の悪化、エルダー制度の問題点・組織拡大の取り組みや第十六回品川国鉄まつりの取り組みなどの発言



が あ っ た 。 書 記 長 集 約 で は ① JR 不 採 用 事 件 早 期 解 決 を 求 め る 闘 い に つ い て 。 ② 労 働 条 件 改 善 ・ 故 障 の 無 い 車 両 の 提 供 に つ い て 。 ③ 組 織 強 化 ・ 拡 大 に つ い て 。 ④ 二 〇 一 一 年 春 闘 に つ い て の 四 点 に わ た り 集 約 が 行 わ れ た 。 白 井 執 行 委 員 長 代 議 員 会 宣 言 が 読 み 上 げ ら れ 一 年 間 の 運 動 を 代 議 員 全 員 で 確 認 し 木 村 委 員 長 の 団 結 ガ ン パ ロ ウ で 代 議 員 会 は 無 事 に 閉 会 し た 。

助役試験合格者 交流会を開催

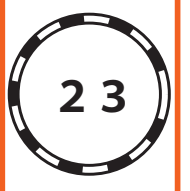
東京地方本部は一月二三日、二〇一〇年度の助役試験に合格した組合員に参加していただき、交流会を開催した。

交流会では合格した組合員から、「不安はあるが、助役と一緒に仕事をしたい。」「仕事内容は理解しているが、小集団や提案などを取り組んでいく。」「小集団や提案の仕事を理解しているが、実務的には変わらないと思う。」「発令されたら、組合差別がないか、仕事を教えてもらえないか不安がある。」「など率直な声が出された。

また、すでに二〇〇八年に助役試験に合格した組合員からは、「国労として合格したいという気持ちで毎日図書館に行っていた。」「周りからも注目されている。」「不安を持っていく人もいると思うが、自然体でやれば、助役の仕事はできる。」「勇気と自信をもって、ゆっくりやっていると欲しい」と、自らの経験を踏まえて激励した。

続いて当該分会などからは、「主任には何人も合格しているが、指導職に一〇何回も受験して不合格の方がいる。」「この間ずいぶん指導職に合格しているが、受かりたい人が受かっていないという問題もある。」「などの現状も指摘された。

連載企画 分会紹介



台車科 分会

首都圏の電車を検査修繕していた大井工場が隣の山手電車区と一緒に東京総合車両センターとなりました。私達の台車科分会は前と変わらず電車の下周り、台車枠・車輪・モーター・ブレーキ部品等の修理修繕をしています。組合員は一三名で「次の入場はM車でなくT車ね」等と指示を交わりました。

職場の問題は国鉄最後の社員と平成採用社員との一〇年近くの技術断層です。大量の社員が退職を迎えるこの二三年、受け継ぐ若手社員が足りないし長期的に現場に残る社員が少ないことです。会社は中・長期ビジョンを检修職場でも実施しています。が、現実の対策は外注化です(エルダー対策と言っている)。台車科内も、具体的に輪軸検査ラインの洗浄・ユニット検査の洗浄・コロ・軸箱等の洗浄・MM部品洗浄・車輪搬送等の作業を外注化をしています。作業工程の中間部分の外注は、作業や工程変更指示などに「偽装請負」と言う問題を抱えています。外注業者と作業している所です。

分会活動の活性化のために、社会的に問題になっているコンプライアンス・偽装請負の疑いのある職場の問題を今年の職場要求にも掲げ今春闘を闘って来ました。また二月二回の執行委員会と二カ月に一回の全員集会及び年末分会大会と新年会での組合員交流を通して分会の結束を図っている所です。



本橋議長・関事務局長へ感謝状

医療の進化にあわせた、アフラックのいちばん新しい「がん保険」です。

生きる気持ちに、本気で応える
アフラックのがん保険

「生きる」を創る。
Affac

アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)
東京第二法人営業部
〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
Tel.03-3344-1459 Fax.03-3344-4036

資料請求したいお客様は、アフラックの各種商品やサービスの案内・提供・維持管理となります。

©詳しくは、「パンフレット(契約概要)」や「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。 AF104-2008-0124 4月18日